

新春のご挨拶

鹿児島市医師会病院 院長 大迫 政彦



明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

昨年は新年早々に能登半島地震が発生し、日本中から多くの支援隊が派遣されました。1月末には当院からも鹿児島大学救急科との混成チームでJMAT隊を派遣致しました。その半年後には同地で大水害が発生し、改めて自然の驚異を知ると共に、鹿児島でも南海トラフ地震、桜島大爆発への備えの重要性を再認識することになりました。

世界に目を移すと、パリオリンピックで多くの日本人選手が活躍し、日本中が歡喜しました。MLBでの大谷翔平選手の活躍は日本のみならず世界に大きな衝撃と感動をもたらし、ワールドシリーズの世界一で頂点に達しました。秋には日本原水爆被害者団体協議会が日本にとって50年ぶりのノーベル平和賞を受賞しました。唯一の被爆国として、原爆の悲惨さを語り続けてこられた方々に敬意を表すると共に、一人の医療者として改めて命の大切さを認識させられました。余談ではありますが、私も被爆2世です。

さて今年は60年に一度の乙巳（きのとみ）の年となります。「乙」は十干では第2位で、困難があっても紆余曲折しながら進むこと、植物がしなやかに最大限成長した状態を表しています。「巳」は蛇をイメージすることから「再生と変化」を意味しています。また脱皮し強く成長する姿は、古来「不老長寿」の象徴や神の使いとして信仰されてきました。そして「乙巳」は、努力を重ねていれば諸事安定していく縁起の良い年になると言われています。この縁起にあやかり病院の運営に努

力して参ります。

1) 診療報酬改定

昨年6月には2年に1度の診療報酬改定が行われました。当初よりかなり厳しい改定となることが予想され、ベースアップ加算を加えても+2.3%、実質は+2.0%前後と言われておりました。一昨年4月～昨年5月までの14か月について診療報酬改定前後の入院診療報酬額を比較したところ、約1,400万円(+0.47%)の増収となりました。今回の改定幅に近づくためには、新規に採用された加算項目を取得する努力の継続が必要であると再確認することとなりました。

昨年は大企業を中心として3%を超えるベースアップが達成され話題となりました。電気、ガス、水道などに加えて食材の値上げが続いており、これらの値上げ分を診療報酬で賄うことはできません。社会全体としても物価高に賃金上昇が追い付かない状況にある中、医療界が社会の動きを追従することは極めて厳しい状況です。そのため若い世代が都会へ流出し、益々貴重な人材が医療から流出していくことを止めるのが難しくなっています。

2) 診療体制

①消化器科ならびに乳腺・甲状腺外科

昨年4月から消化器内科医が2名体制となったため、外科医3名と共に消化器科としてスタートしました。渡邊照彦外科部長を統括として、急患対応も含め消化器科チームとして診療にあたっています。

す。消化管出血、緊急減黄術などへの対応が困難な場合には、鹿児島市立病院消化器内科と連携し対応していますので、ご相談下さい。

昨年2月からは乳腺・甲状腺外来をスタートし高濱哲也医師が担当しています。年間30例の手術症例を目標とし、半年間で12例の実績でした。循環器系、脳神経内科系疾患を併存する高齢な患者でも、当院の総合力で対応させていただきます。目標達成のためにも是非ご紹介をお願い致します。

②呼吸器外科外来

呼吸器外科外来は、従来の第2、第4火曜日午前中に加え、昨年11月から第1、第3、第5金曜日午前中も診療しております。鹿児島大学呼吸器外科からの出向医師が担当しております。健診後の精査目的なども含めて、ご紹介・ご相談下さい。

③総合内科

会員の先生方から強く要望されていた総合内科外来をスタートして2年目となりました。初診受付時間を月曜日～金曜日の午前8時半～午後3時とし、出来るだけ多くの先生方のご紹介に対応できるようにしております。上記時間外については、当日のオンコール担当医師が対応致しますので、医療連携室にご連絡下さい。総合内科は脳神経内科の医師を中核としてトリアージを行い運用しておりますが、症状や疾患に応じて、内科系はもとより外科系医師も総力を挙げて対応しております。2040年～2050年頃までは高齢患者の増加が予想されております。複数の併存疾患を持つ高齢患者が増加し、病院の持つ総合力、チーム医療の力が試されます。病院全体で医療の質の向上に努めて参りますので、ご紹介を宜しくお願い致します。ご紹介

介こそが病院の活力、経営を支える源となります。

④緩和ケア内科と在宅診療

前回の診療報酬改定を契機としてACPに対する考え方が浸透してきました。当院は鹿児島医療圏内で最も多い31床を有しておりますが、まだまだ十分とは言えません。ただコロナ禍を契機として在宅での看取りを希望する患者、ご家族が増えてきたのも事実です。このような現状に合わせて、当院にご紹介頂いた患者様を対象として馬見塚勝郎緩和ケア科部長を中心に在宅診療を開始致しました。また会員の先生方が対応困難な難病患者の在宅診療にも対応を開始しております。

昨年4月からは常勤医5名体制となり、高度急性期病院の鹿児島市立病院、鹿児島大学病院などを中心とした病病連携、在宅医会の先生との病診連携を強化しながら、在宅診療・在宅看取りにも対応して参りました。引き続きご紹介を宜しくお願い致します。

⑤婦人科

当院婦人科は医師4名体制で良性疾患の腹腔鏡手術に特化し、県内各地から多くの手術患者様をご紹介頂いております。手術症例の増加に対応して、鹿児島大学婦人科からは手術の応援医師も派遣されております。出来るだけ多くの患者様の診療に対応できるように、会員の先生方との連携を密にしながら運営して参ります。術後の検診を含めて、引き続き連携を宜しくお願い致します。

⑥後期研修プログラム

昨年4月より後期研修プログラム「総合診療科」の募集をスタート致しました。令和6年度から研修をスタートした医師はおりませんが、新年度以降の研修希望の医師を継続して募集しております。「総

合内科」を柱として、内科系・外科系専門医も協力し全病院体制で指導・育成に努めて参ります。鹿児島市医師会員の先生方には、小児科、整形外科、在宅診療を中心に協力頂く体制を整えております。さらに鹿児島大学病院、県立大島病院、種子島医療センターの先生方にもご協力・ご指導を頂きながら育成して参ります。会員医療機関の後継者育成の一助にも成ればと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

3) 経営体制

①稼働病床数について

令和5年度の一日平均入院患者数をもとに、昨年4月から稼働病床を134床(許可病床199床)とし、経営のスリム化を目指し運営しております。開院40周年を迎え、定年退職となる職員を含む退職職員の補充を調整しながら病棟・病床の調整を行いました。1病棟を休棟とし4病棟をフル回転させることにより、入院依頼に対応しております。当初の4月～5月は苦戦しましたが、徐々に稼働率は上がってきました。しかし経営の安定化にはまだまだ不十分です。より一層のご紹介をお願い致します。

②経費削減について

稼働病床数を調整するにあたり、スタッフ数も減ることとなりました。定年退職者に加え新規採用を調整しつつ、職員定数を減ずることで、年間約2億円の経費を削減致しました。

③増収対策について

緩和ケア科患者を中心に在宅診療を3か月で30回以上行うことで地域包括ケア病床の入院管理料1を取得できました。在宅診療収入と合わせて年間約1,200万円以上の増収となります。また乳腺・甲状腺外科手術により年間2,000

万円程の増収を見込んでおります。さらに今回の診療報酬改定による増収を1,000万円程と見込んでおります。総じて年間4,000～5,000万円程度の増収になると予想しております。

これからも急性期から地域包括ケア、緩和ケアまでシームレスな医療体制を継続し、会員の先生方はもとより患者様とご家族に信頼され安心して利用して頂ける病院を目指して参ります。本年も旧年にも増してご指導賜りますようお願い申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

結びにあたり鹿児島市医師会員の先生方、ご家族、職員の皆様にとって実りある年となりますことを祈念しております。